

フィンランドとの新たな協力に向けた覚書に調印

11月24日、フィンランド・ヘルシンキ市で「仙台フィンランドの新たな協力に向けた覚書」の調印式が行われ、奥山市長が出席しました。

市は、平成15年11月にフィンランド政府機関などと「仙台フィンランド健康福祉センタープロジェクト協力合意書」を締結。平成17年度から、青葉区水の森にある同センターを拠点に、健康福祉分野の産業振興を目指す「仙台フィンランド健康福祉センタープロジェクト

クト」を実施し、フィンランドと仙台的の大学・企業が連携して、健康福祉分野の製品やサービスの研究開発・事業化を進めてきました。今回、本年度でその協定期間が終了することに伴い、来年度以降さらに幅広い分野のビジネスを展開していくための協力について、覚書を取り交わしました。

また、11月25日にはICT（情報通信技術）などの分野における産業振興を目的としてオウル市などと締結している「産業振興のための共同イニキエーション協定」を更新する調印を行いました。今後も相互の連携により、さらなる産業の発展を目指します。

市政トピックス

国連防災世界会議ジュニアカンファレンスを開催

3月に迫った第3回国連防災世界会議の開催を前に、12月7日、仙台国際センターで、次世代を担う中学生が世界会議について学び、震災の教訓や防災をあらためて考える「国連防災世界会議ジュニアカンファレンス」が開催されました。



グループ討論では震災時のことを振り返り、教訓や今後自分たちにできることをまとめました

当日は公募により集まった市内の中学生約50人が参加。世界会議の概要や仙台開催の意義などの説明を受けた後、実際の会議でも行われる同時通訳を体験したり、仙台在住の外国人による被災体験のスピーチを聞いたりしました。

また、災害への備え、災害が起きた場合の対応、海外への災害支援の三つのテーマに分かれてのグループ討論と発表が行われ、参加した生徒たちは真剣な表情で議論を交わしながら、防災への意識を高めていました。

市政トピックス

icscaの利用がスタートしました

ICカード乗車券icscaが12月6日に利用開始となり、同日、地下鉄仙台駅構内でオープニングイベントが行われました。オープニングセレモニーで奥山



▲通り初めの様子。「タッチでゴー」によりスムーズに改札を通れるようになりました

▼イベントにはベガッ太やティナも駆け付け、icscaをPRしました



復興へ駆ける

大震災の記憶を未来へつなぐ

仙台市長 奥山恵美子



平成25年7月にスタートした「震災復興メモリアル等検討委員会」が10回の審議を経て、提言を作成。去る12月25日に報告書をいただきました。

東日本大震災から5度目の春が巡ってようとしています。この間、生活再建に向けてさまざまな努力が積み重ねられ、防災集団移転先地の造成や西部地域の宅地復旧、復興公営住宅の建設等も目に見えるところまで進んできました。

しかしながら、震災直後の非日常の暮らしが一步一步日常の暮らしに近づくにつれて、あの時の恐ろしい経験、貴重な教訓、後世に語り伝えたい知恵といったものが、穏やかだった海辺の日々と同様、次第に語られなくなり、いつしか忘れ去られてしまっているのではないかと、そんな危惧の念を感じている方も、また、少なくないものと思います。

千名近くの方々が犠牲となった震災の記憶と経験を未来へつなぐために、私たちは何をしていけばよいのか。そのことをメ

モリアル委員会にご議論いただきました。報告書には、市と市民の皆さんで取り組むべき六つの項目が掲げられています。

「東部地域のみどりの再生」「貞山運河の再生と利活用」「モニメントと遺構による記憶の継承」「市民力によるアーカイブの整備と利活用」「文化・芸術の力を復興と記憶の継承に生かす」「知り学ぶ機会をつくる」の六つです。これらを推進するために中心部と沿岸部に拠点を設けることも盛り込まれました。

どの項目も、多くの方々の参画を得て議論を深め、仲間を募り、活動を組み立て、知見や成果を発信し、それらを再度検証して、事業の方向性やありようをより確かなものにするという、息の長い、覚悟を持った取り組みが必要なが分かります。

時の流れに棹さし、忘れないという強い志のもと、107万市民一人一人と手を携え、共にメモリアルの担い手として歩んでいくことを、この年の初めの願いしたいと思います。

市政トピックス

都市ガスの防災ーパイプラインの受け入れ基地が完成

新潟ー仙台を結ぶ天然ガスのパイプラインの受け入れ地点として、震災後に名取市内に整備を進めてきた受け入れ基地が、12月1日に完成しました。

この天然ガスは、都市ガスの原料となるものです。震災では、パイプラインに大きな被害はありませんでしたが、受け入れ地点が津波の直撃を受けたガス局港工場内にあつたため、がれきの撤去や点検・試運転などで、供給再開までに12日間を要しました。

新たに完成した受け入れ基地は、津波の影響を受けない内陸側に整備。万一の場合には、ここで天然ガスを受け入れ、供給エリアに送り出すことで、引き続きガスの安定供給に努めます。



市政トピックス

スポーツコミッションせんんだいが設立

官民一体となって、国内外で開催されるスポーツイベントを招致し、開催支援等を行う新たな組織として「スポーツコミッションせんんだい」が設立され、12月13日に設立総会が行われました。



この組織には、競技団体をはじめ、在仙プロスポーツ球団、経済団体、行政機関など47団体が参加。スポーツイベントの集客力を生かして、観光・交流人口を増やし、地域経済の活性化につなげるとともに、市内のさらなるスポーツ振興を図ります。

今回、会長に就任した奥山市長は「仙台は世界で活躍する選手を次々と輩出し、プロスポーツチームもたくさんある、日本有数のスポーツのまちといえます。大きな大会を誘致して子どもたちの夢を育み、元氣のあるまちにしたい」とあいさつしました。

